

平成14年12月期 第1－3四半期業績概況

平成14年11月14日

上場会社名 東燃ゼネラル石油株式会社

(コード番号: 5012 東証第一部)

(URL <http://www.tonengeneral.co.jp>)

問合せ先

(TEL : (03) - 5425 - 9000)

責任者役職: 人事・広報渉外本部長
氏 名: 内村 敏郎

1 四半期連結損益計算書等の作成等に係る事項

- ① 財務諸表等の作成に際して準拠した基準 : (中間連結財務諸表作成基準)
- ・会計処理方法の変更の有無 : 有 ()・無
- ・中間決算等と異なる会計処理の有無 : 有 ()・無
- ② 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有 ()・無
- ③ 公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 有 ()・無

2. 平成14年12月期第1－3四半期の業績概況(平成14年 1月 1日 ～ 平成14年 9月30日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
14年12月期第1－3四半期	1,373,879	(-)	△ 6,989	(-)	△ 3,366	(-)	1,301	(-)
13年12月期第1－3四半期	-	(-)	-	(-)	-	(-)	-	(-)
(参考) 13年12月期	2,062,274		53,018		51,187		20,559	

	1株当たり当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	
	円	銭	円	銭
14年12月期第1－3四半期	2	12	-	
13年12月期第1－3四半期	-		-	
(参考) 13年12月期	30	93	-	

(注)売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示す。

7-9月期は、燃料油販売数量が前年同期比で2.7%増加し、4-6月期(同17.4%減少)に比べ大幅な回復となりました。7-9月期の連結売上高は5,031億円となり、1-6月期8,707億円と合算し、1-9月期は1兆3,738億円となりました。また、7-9月期の連結営業利益は燃料油の販売数量が回復したものの、揮発油、軽油等を中心に製品マージンが4-6月期に比べ低下したため、連結営業利益は65百万円の利益にとどまりました。その結果、1-6月期が70億円の損失であったため、1-9月期は69億円の連結営業損失となりました。尚、1-6月期の連結営業損失には在庫の会計方針変更等に伴う70億円の減益要因が含まれておりましたが、7-9月期には32億円の在庫評価益が含まれています。

また、7-9月期の連結経常利益は、持分法適用会社の収益等もあり、8億円となりました。この結果、1-6月期が41億円の損失であったため、1-9月期の連結経常利益は、33億円の損失となりました。

7-9月期の連結純利益は、主に遊休資産の売却により、25億円となりました。これらのことから、1-9月期の連結純利益は1-6月期12億円の損失から、13億円の利益に転換しました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
14年12月期第1-3四半期	884,149	211,008	23.9	356 21
13年12月期第1-3四半期	—	—	—	—
(参考)13年12月期	1,000,349	271,747	27.2	428 19

[連結キャッシュ・フローの状況]

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
14年12月期第1-3四半期	21,528	1,982	△ 26,343	1,325
13年12月期第1-3四半期	—	—	—	—
(参考)13年12月期	75,753	△ 25,958	△ 50,057	4,158

平成14年9月末の資産については、主に売掛金が減少し、かつ固定資産も減価償却及び資産の売却等により減少した結果、総資産は平成13年12月末比1,161億円減の8,841億円となり、株主資本は2002年5月に自己株式を取得したこと及び配当金の支払い等により平成13年12月末比607億円減の2,110億円となりました。

平成14年1月-9月期のキャッシュ・フローについては、営業活動によるキャッシュ・フローは、主に減価償却費及び運転資本の好転により215億円となりました。また、投資活動によるキャッシュ・フローについては、有形固定資産及び投資有価証券の売却等により、19億円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、主として借入金が増加したものの、400億円を支出して自己株式を取得したこと及び配当金の支払い等により△263億円となりました。

(参考1) 四半期個別経営成績の概況(平成14年1月1日～平成14年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
14年12月期第1-3四半期	1,378,534	△ 12,329	△ 6,362	△ 729

	総資産	株主資本
	百万円	百万円
14年12月期第1-3四半期	802,193	168,080

3. 平成14年12月期の連結業績予想(平成14年1月1日～平成14年12月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益	
				円	銭
中間期	百万円 —	百万円 —	百万円 —	—	—
通期	1,890,000	6,000	4,000	6	53

石油製品の販売数量の増加並びに売上価格の上昇を見込み、連結売上高は前回予想(8月29日)時に比べて200億円の増加が見込まれます。7-9月期は販売数量が前回予想を上回る結果となりましたが、製品マージンが予想よりも低下したため、連結営業利益は前回予想を下回る結果となりました。一方、10-12月期の見通しとして、販売数量は7-9月期に引き続き好調であり、また足もとの製品マージンが回復傾向の中、7-9月期を上回るマージン水準を想定しています。このことから10-12月期は7-9月期よりも、収益の一層の改善を見込んでいます。さらに年間を通じたコスト削減は前回予想通り、順調に進む予定です。

(参考2) 平成14年12月期の個別業績予想(平成14年1月1日～平成14年12月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり年間予想配当金		
				中間	期末	
中間期	百万円 —	百万円 —	百万円 —	円 銭 18.00	円 銭 —	円 銭 —
通期	1,920,000	2,000	4,000	—	18.00	36.00

前記の業績予想は、現時点における情報に基づき当社の経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依存した投資判断はお控え下さいますようお願いいたします。当社グループの業績は、石油・石油化学事業を中心とした経済情勢や市場動向並びに為替レートの変動等の要因により予想とは異なる結果となる可能性がある事をお含み置き下さいますようお願い申し上げます。